



練馬中学校だより 第10号

若き我ら

校歌より 森田 健 氏作詞

平成25年11月5日

練馬区立練馬中学校
練馬区高松1-24-1
tel:03(3990)5451
url:www.nerima-j.nerima-ty.ed.jp



11月2日(土)文化発表会

生徒会のオープニングセレモニーから始まった舞台発表の前半は、生徒会の練中ソーランに、各学年の総合的な学習の時間の発表、英語部の英語レシテーション、オーストラリア海外派遣報告、後半は、5組劇「We are …」、吹奏楽部の演奏と続く多彩な内容。

展示は、教科、総合的な学習の時間、部活動等、

P T Aに加えて、「練馬中ディサービス」利用の皆様、小中一貫教育研究を進めている春日小学校の皆さんの作品と27部門からの参加です。

ジャンルは違うものの、コツコツと地道に努力し、自分の持っている力を精一杯発揮する生徒たちの姿とその作品は、いつ見ても素晴らしいものだと思います。

三者面談 11月7日(火)～13日(水)

7月の三者面談から、夏休みと9、10月の3ヶ月が過ぎました。その間、期末考査があり、1学期が終わりました。今までの頑張りや成長を確認するとともに、課題を整理して、具体的な行動へつなげていきましょう。

3年生は、来年4月からの自分の居場所を考える三者面談です。人生の一つの選択をしなければならぬ瞬間です。

悩みます。迷います。苦しみもします。そんな状況であるからこそ、うわさや名前に惑わされずに、自分の目標をはっきりと見定めてほしい。

6年前まで、高校の入学選抜業務に携わっていた者として、特に3年生に伝えたいことは、中学

校の学習の整理をしっかりとすることです。

高校の魅力は、いろいろとありますが、基本は授業です。中学校の全学習内容を整理することは、充実した高校生活を送る基盤となります。入試科目ではない教科を含めて、全教科と全活動を精一杯に取り組むことが、今求められています。

「いつも、今が出发点」やるべきことを、やりたいことを今日から始めよう。

11月19日(火)からの中間考査を一つの目標にして、頑張る自分を作りましょう。

まさに「今やらないで、いつやるの？」

※5組の三者面談は、12月2日(月)～6日(金)を予定しております。

心にも健康を 「早寝・早起き・朝ご飯」

11月は「心のふれあい月間」です。

本校では、10月に全校生徒にアンケートを実施し、内容に即して相談等を行いました。また、ご家庭で心配な点があれば、今回の三者面談でご相談ください。必要に応じて、保護者の方との二者面談も時間内に設定します。

本校には、臨床心理を専門とするスクール・カウンセラーと心のふれあい相談員がおります。生徒だけではなく、保護者の方々からの相談にも対応しておりますので、

どうぞ、お気軽にご連絡ください。

<カウンセリングルーム専用携帯番号>
090(3225)2748

神谷(かみや)先生 スクール・カウンセラー
金曜日 午前9時から午後5時30分
麻生(あそう)先生 心のふれあい相談員
火曜日 午前9時15分から午後6時

実行委員長のあいさつ ～「練中文化爆発」～

今日の文化発表会で、私はソーラン節に出ました。今年は、今までよりみなさんの印象に残るものにしようと、生徒会では取り組みました。その一つは、私たちのソーラン節にかける思いを、映像で伝えてみました。また、ダンスは、去年よりも難易度をあげた動きに挑戦してみました。少ない練習期間ではありましたが、自分達としては納得のいく発表ができました。それがみなさんに伝わったでしょうか。

一年生の鎌倉の発表は、元気が伝わってくる一年生らしい発表でした。舞台での演技からは、初めて行く鎌倉にわくわくしている、当日の一年生の様子が目に浮かびましたね。

二年生の都内めぐりの発表は、発表していた人達が、一人ひとり自分の感想を持っているのが伝わってきて、心に残った行事だったんだろうなと思いました。人気のあるドラマ仕立てになっていたのも面白かったです。

三年生の修学旅行の発表を見て、友達との絆がより深まった、修学旅行の三日間を思い出しました。京都や奈良にある文化財は、やはり、日本人としては、一度は見ておいた方がいいものだと思います。修学旅行は、個人ではなく、みんなで行くからこそ楽しいのだと思います。また、班行動でほとんど先生の力を借りずに行動できたのは、私たちが去年・一昨年よりも成長したからだと思います。中学校生活の集大成でもある修学旅行を、1・2年生の皆さんも楽しみにしてください。

英語部の発表は、すごかったです。日本語でやらないということが、まずすごいと思います。登場人物の気持ちが伝わるように、表現の仕方にも気をつけて読んでいたんだと思います。練習にも相当時間がかかっただろうと思いますが、投げ出さずに取り組んだ英語部の人たちの精一杯の努力が伝わってきました。

海外派遣でオーストラリアに行った二人は、日本語以外の言語で意思疎通ができるのがすばらしいと思います。海外で英語を話すために、私たちよりたくさん英語を勉強したんだと思います。英語でのコミュニケーションなんて無理だろうと思っていましたが、報告をきいて、大丈夫だったと言うことがわかり、実際に体験してみないとわからないことなんだなと思いました。私も、この報告をきいてオーストラリアへ行ってみたいくなりました。

五組の劇は、震災の日の苦労・悲しみ・辛さ・思いやりが伝わってきました。迫力のある劇でした。震災にあった人達は、苦労を乗り越えてみんな頑張ってきたんだなど、改めて思いました。波のような踊りは、人数が多かったからこそできた演技だと思います。また、劇中の歌は、助けてくれた人達への感謝の思いが感じられて感動しました。

吹奏楽部の演奏は、とても迫力がありましたね。四曲はどれも、人気のある有名な曲でした。三年間吹奏楽部の演奏をきいてきましたが、毎年楽しめる曲でした。吹奏楽部の皆さんの普段の頑張りが発揮できた演奏だったと思います。

私は、今年の文化発表会は、どの学年、どの団体も、新しいことに取り組んでいたと思います。例えば、5組の劇では、去年の歌に加えて踊りもあり、海外派遣の発表では、舞台の上に字幕を写していました。また、英語部では、去年のスピーチより1ランク上の朗読劇にチャレンジしていました。

今年の文化発表会は、スローガンのとおり、練中の文化を爆発させることができたと思います。

文化発表会実行委員長 西内 華
[原稿作成] 西内 華・小山拓人

